

1



2

DPAT活動3原則：SSS（スリーエス）

共通

S elf-sufficiency	自己完結型の活動	②
S hare	積極的な情報共有	
S upport	名脇役であれ	

大規模災害への体系的な対応に必要な項目

C ommand & C ontrol	指揮と連携
S afety	安全
C ommunication	情報伝達
A ssessment	評価
T riage	トリアージ
T reatment	治療
T ransport	搬送

(英国 MIMMS® Major Incident Medical Management and Support) より引用、改変

3

○ 派遣の準備 ※詳細はDPAT活動マニュアルを参照

共通

< 携行資機材等 >

- 個人装備
- チーム装備
- 通信・記録資機材
- 生活用品
- 医療資機材
- 医薬品

< 印刷持参物 >

- 救護班登録用紙
- 災害診療記録
- 精神科病院入院患者搬送用紙
- 医療搬送カルテ
- 診療情報提供書

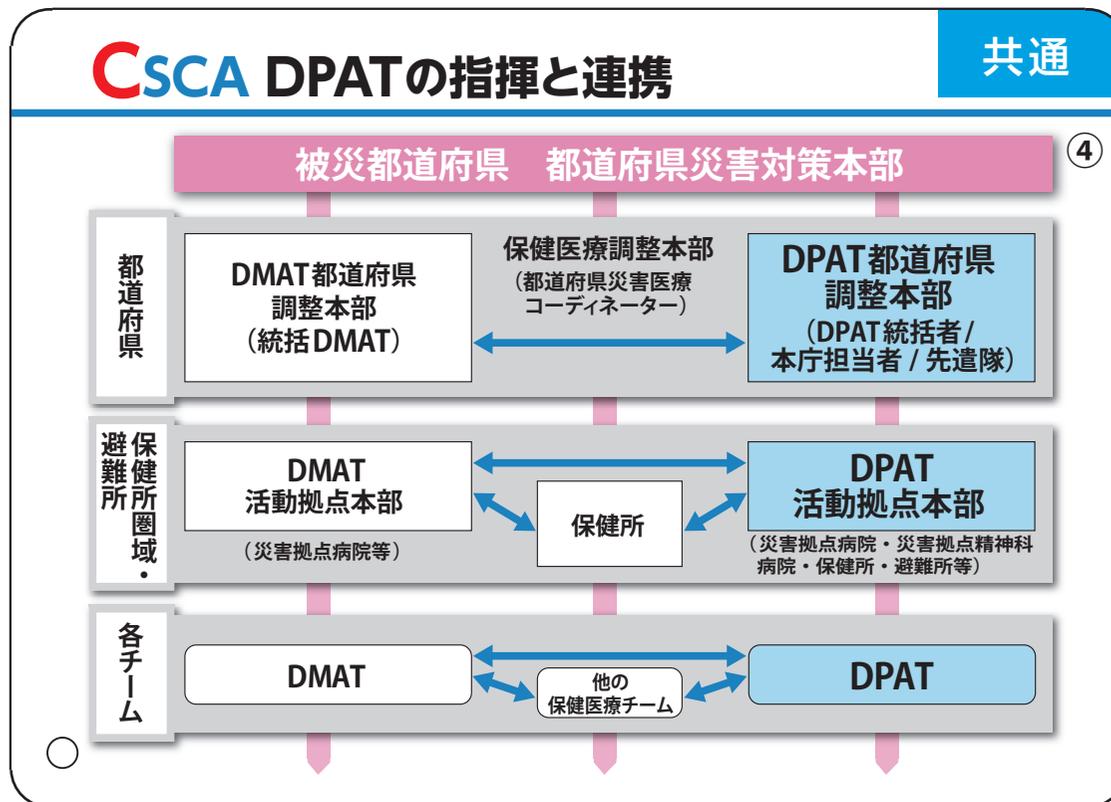
※被災地の状況に応じて資機材の種類・量を検討

③

< 調整・予約 >

- 移動手段
- 宿泊先

- ・安全な移動経路の検討
- ・車両点検
- ・気象に合わせた装備
- ・燃料確保 等



5

○ **CSCA** 本部の立上げ ; HeLP-SCREAM

共通

H ello	カウンターパートへの挨拶	⑤
L ocation	本部の場所の確保	
P art	初期本部人員の役割分担	
S afety	安全確認	
C ommunication	連絡手段の確保	
R eport	上位本部への立ち上げの連絡	
E quipment	本部機材の確保	
A ssessment	アセスメント	
M ETHANE	状況の評価と情報発信	

6

CSCA 安全の確保 ; 3S

共通

安全 Safety 3S

⑥

Self 自分

Scene 現場

Survivor 生存者

単に熱意があるというだけで現場に入って活動してはならぬ。
現場で活動するには、それに相応しい知識と装備が不可欠。

○ CSCA 情報伝達；情報支援システム

共通

EMIS

⑦

- ・ 機関コード / パスワードを忘れずに!
- ・ 救護班登録：「〇〇県DPAT(〇〇病院)」で統一する
- ・ 救護班登録用紙を10枚程度印刷して持参する
- ・ 活動状況入力は適宜更新する

J-SPEED；本庁担当者と隊員はそれぞれ以下を実施すること

	平時	災害時
本庁 担当者 (本部)	関係者へ下記周知 ・ アプリのライセンスNo ・ WebシステムのID・PW	・ チーム登録 (Web/アプリ) ・ 支援状況の把握 (Web)
DPAT 隊員	【アプリ】 ・ アプリのインストール ・ プロフィール登録	【アプリ】 ・ 派遣先地図のダウンロード ・ チーム選択 ・ 活動日報作成・報告

CSCA 情報伝達；通信確保(衛星電話)

共通

- ・機材の確保：災害に強い複数の通信機器の確保
- ・人員の確保：通信手段を適切に扱える人員配置
- ・場所の確保：適切に通信機器が使える場所の確保

⑧

衛星携帯電話 設置のポイント

- ・アンテナは障害物(人・植木など)の無い場所、高さ80cm以上の場所に設置
※活動導線にも配慮
- ・インマルサットBGANはGPS受信可能な場所に設置
- ・通信状態が悪い場合は、一旦通信を切り、再度電波を捉え直す
- ・防水対策には、アンテナをビニールで覆う

衛星携帯電話のセットアップ

1. 設置場所の設定(コンパスを衛星電話とともに携行)
 - ・Nスター(ワイドスターII)；南
 - ・イリジウム；上方
 - ・インマルサット(BGAN)；南
 - ・スラーヤ；南西
2. アンテナ方向調整
3. 電源投入・バッテリー残量確認
4. 衛星アンテナレベル(受信レベル)調整
5. 通信準備完了

○

○ CSCA 情報伝達；通信確保(無線)

共通

<発信前の確認事項> 3つの“電”

⑨



電源を入れる



電池残量を確認する



電波(周波数)を合わせる

<無線用語>

- | | |
|-------------|--------------|
| ・「どうぞ」 | 次は受信者が話せ |
| ・「以上」 | 通話終了 |
| ・「了解」 | 了解した |
| ・「送信せよ(送れ)」 | 受信する準備ができた |
| ・「しばらく待て」 | 確認する時間を必要とする |

評価；情報収集 (METHANE)

共通

災害時に収集すべき情報と例

⑩

Major incident：大事故災害 「待機」または「宣言」

「△△市が地震と津波により被災した」

Exact location：正確な発生場所 地図の座標

「津波の発生場所は〇〇県△△市の沿岸部」

Type of incident：事故・災害の種類 鉄道事故、化学災害、地震など

「災害の種別は、震度7の地震と津波」

Hazard：危険性 現状と拡大の可能性

「市内は、電気、ガス、水道、電話などライフラインが断絶し、瓦礫が散乱し通行不能の道路あり」

Access：到達経路 進入方向

「緊急車両は高速道路を利用し幹線道路で市役所まで到着可能。JR、バスの交通機関は停止」

Number of casualties：負傷者数 重症度、外傷分類

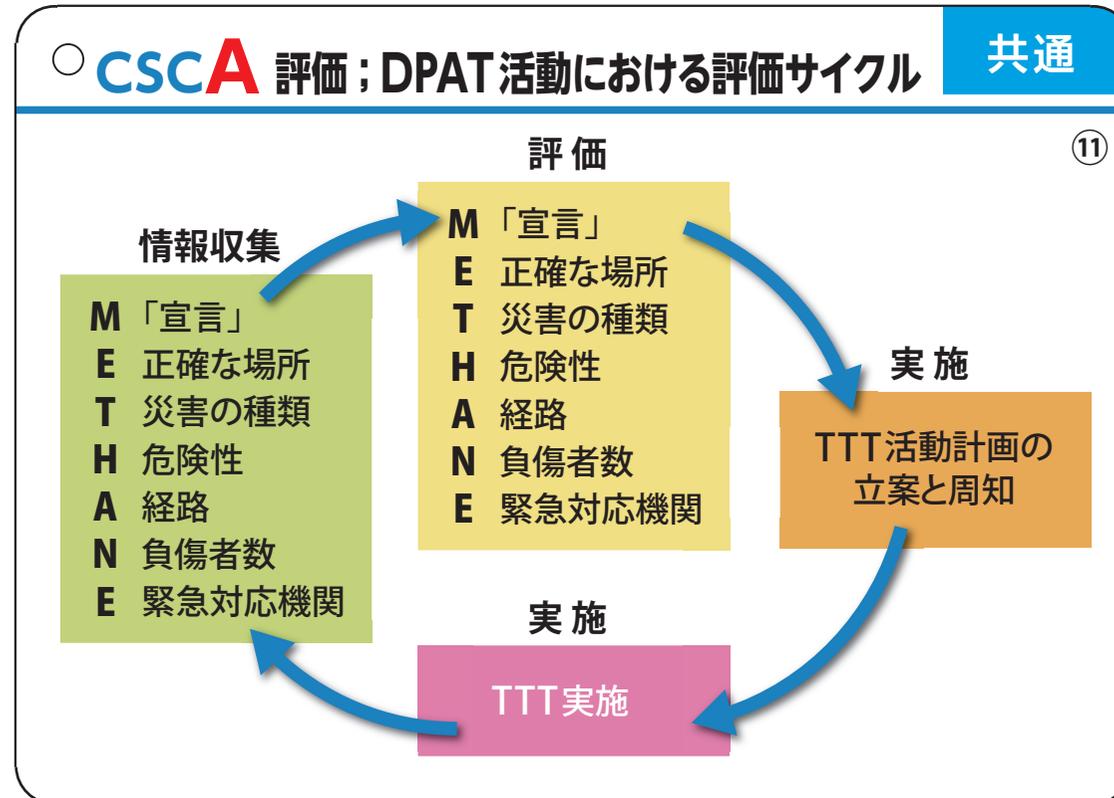
「市内には複数の精神科病院があり、いくつかの病院から救援の要請あり、EMIS 未入力 of 病院あり」

Emergency services：緊急対応すべき機関

「情報収集や病院支援のためDPATの派遣が必要」

○ METHANE: MIMMS
Advanced course より引用

— METHANEを踏まえて現状把握と今後必要となる対応を検討する



情報管理：経時的活動記録(クロノロジー)

共通

- ・ 入ってくる情報、収集した情報、発信した情報、すべてをクロノロジーに書き、共有、記録のためにも電子化する
- ・ 定期的に情報の共有、見直し、方針を明示する

⑫

時刻	発信	受信	内容
10:00	DPAT 調整本部	〇〇県 DPAT	〇〇医療センターに DPAT 活動拠点本部立ち上げの指示を受け、受諾。活動拠点本部を DPAT 隊の参集拠点とする
11:30			〇〇医療センター到着
13:00			〇〇医療センター内に DPAT 活動拠点本部立ち上げ 本部長：山田、副本部長：田中
13:10	DPAT 活動拠点本部	DPAT 調整本部	活動拠点本部立ち上げ報告
13:30	EMIS		管轄の精神科病院 15 病院中、要手配 2 病院、未入力 1 病院、支援不要 12 病院
13:45			〇〇県 DPAT 到着

〇〇県 DPAT のクロノロ例

【発信・受信】

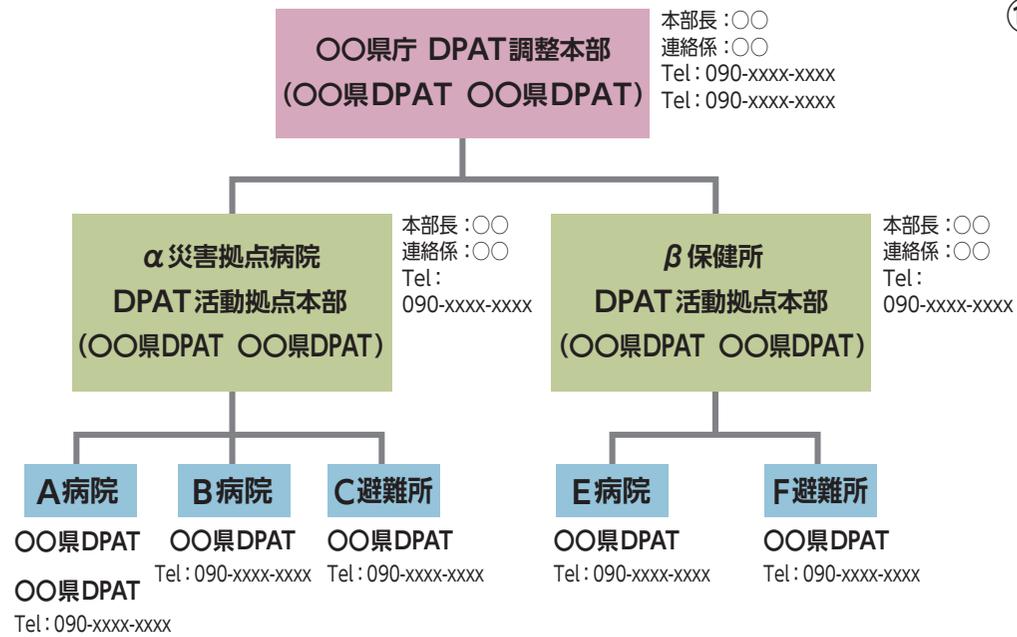
- ・ 基本は組織名のみ ※ 担当者が複数など状況に応じて「組織名 + 担当者名」を記載
- ・ 組織名は統一する

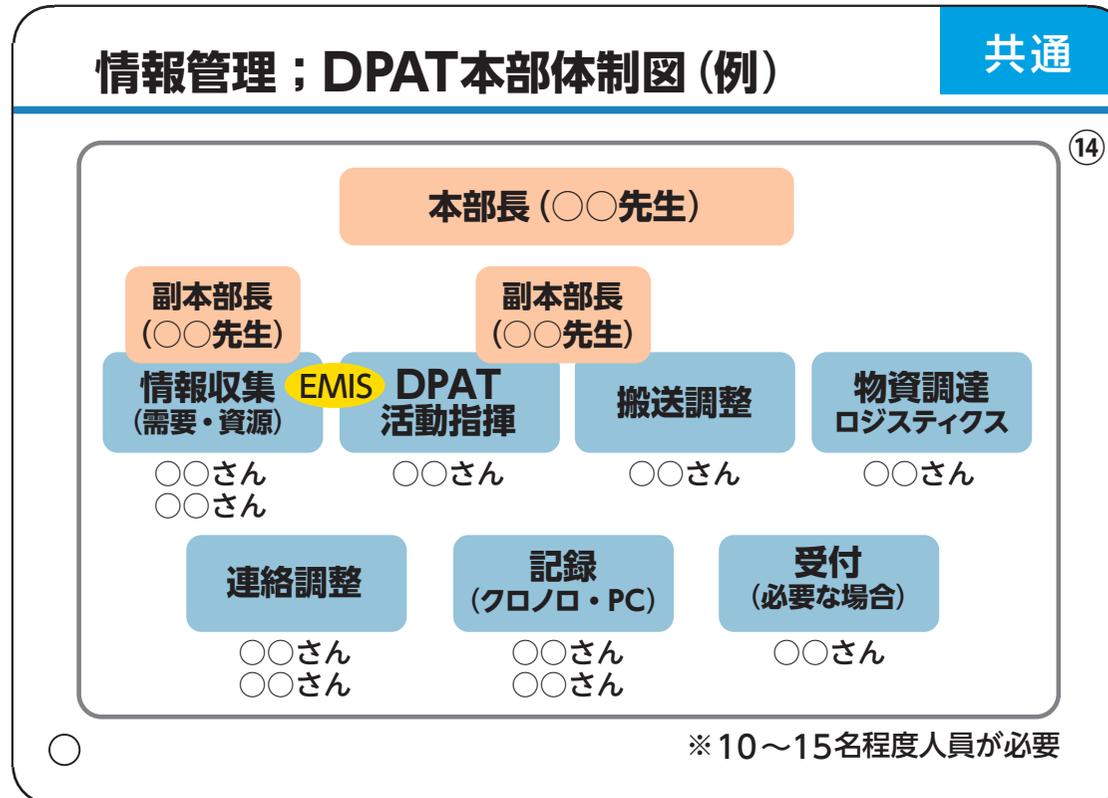


○ 情報管理；DPATの組織図と活動隊(例)

共通

13





○ 情報管理；コンタクトリスト(例)

共通

機関名	担当者	連絡先
〇〇県障害福祉課	田中、佐藤	000-0000-0000
〇〇保健所	山口	000-0000
××保健所	高橋	000-0000-0000
〇〇病院	鈴木	固定：000-0000 衛星：0000-0000
〇〇災害拠点病院	伊藤 〇〇DMAT	固定：000-0000 衛星：0000-0000
〇〇県精神科病院協会	井上	000-0000-0000
〇〇避難所	木村	000-0000-0000

⑮

関係機関の連絡先を担当者と共に記載しておく

DPAT本部における主な役割

本部活動時

- ・ 指揮命令系統の確立
- ・ DPATの**指揮及び調整、ロジスティクス**
- ・ 管内地域の精神保健医療に関する**情報収集**
- ・ 地域災害医療コーディネーター、DMAT本部、関係機関等との**連絡及び調整**
- ・ 病院避難等における**受入病床及び搬送手段の確保**
- ・ 病院の**診療機能を維持する支援**
- ・ DPAT活動に関する**情報発信 等**

①⑥

○ 本部活動において収集すべき情報と入手先

本部活動時

項目	入手先
① 被災の全般的状況 ・ ライフライン ・ 道路状況 ・ 死者、傷病者の数 ・ 避難所の設置状況 等	・ 県 / 市の災害対策本部 ・ 消防 / 警察 / 自衛隊 ・ テレビ、ラジオ、インターネット 等
② 保健医療資源の状況 ・ 医療機関の被災状況 ・ DMAT、医療救護班等の活動状況 ・ 救護所の設置状況 等	・ EMIS ・ DMAT 本部 ・ 県 / 市の災害対策本部 ・ 保健所 等
③ 精神科医療ニーズ ・ 精神科医療機関の被災状況 ・ 地域での緊急対応事例 等	・ EMIS ・ 保健所、消防 / 警察 ・ 精神科病院協会、各病院
④ 精神科医療資源の情報 ・ DPAT の参集状況及び活動状況 ・ 受入可能精神科病院の情報 等	・ EMIS ・ 精神保健医療の担当部局 ・ 精神科病院協会 等

⑰

情報管理；精神科病院の被災状況まとめ(例)

本部活動時

⑱

■ 精神科被害状況(〇月〇日〇時〇分現在) 全精神科病院数()病院

管轄エリアの精神科病院数	30 病院
① 診療機能に影響を及ぼす被害あり	3 病院
うち、病院避難が必要な病院	2 病院
② 未確認	5 病院
③ 支援の必要なし	22 病院

2次医療圏	病院名	被害状況
○○	A 病院	建物倒壊の恐れ、要患者転院
	B 病院	断水、停電、要患者転院
○○	C 病院	停電

○ 情報管理；ホワイトボードの使用（例）

本部活動時

19

クロノロジー様式
(時刻・発・受・内容)を記載

(クロノロジー)

時刻	発	受	内容										
			<p>(被災状況・病院状況等)</p> <p>(都道府県地図)</p>  <p>■精神科被害状況 (〇月〇日〇時〇分現在)</p> <table border="1"> <tr> <td>精神科病院数</td> <td>30 病院</td> </tr> <tr> <td>① 診療機能に影響を及ぼす被害あり</td> <td>3 病院</td> </tr> <tr> <td>うち、病院避難が必要な病院</td> <td>2 病院</td> </tr> <tr> <td>② 未確認</td> <td>5 病院</td> </tr> <tr> <td>③ 支援の必要なし</td> <td>22 病院</td> </tr> </table>	精神科病院数	30 病院	① 診療機能に影響を及ぼす被害あり	3 病院	うち、病院避難が必要な病院	2 病院	② 未確認	5 病院	③ 支援の必要なし	22 病院
精神科病院数	30 病院												
① 診療機能に影響を及ぼす被害あり	3 病院												
うち、病院避難が必要な病院	2 病院												
② 未確認	5 病院												
③ 支援の必要なし	22 病院												

都道府県地図を貼付
需要と資源の情報を
マッピング

精神科病院
被災状況

本部体制図
組織図と活動隊

〇月〇日(〇)

(活動方針)

- 被災病院の情報収集

(未解決リスト)

- 〇〇病院倒壊 5名搬送依頼あり
- 〇〇避難所 1名パニック発作 DPAT 出動要請あり
- 〇〇病院 50名分の水と食料がない → 県へ要請済み

(本部体制図)

本部長(〇〇先生)

```

    graph TD
      A[本部長(〇〇先生)] --> B[副本部長(〇〇先生)]
      A --> C[副本部長(〇〇先生)]
      B --> D[情報収集(〇〇先生) / 情報提供(〇〇先生)]
      B --> E[EMIS DPAT 活動指揮(〇〇先生)]
      C --> F[搬送調整(〇〇先生)]
      C --> G[物資調達(〇〇先生) / 物資配送(〇〇先生)]
      D --> H[連絡調整(〇〇先生)]
      E --> I[記録(〇〇先生) / 記録(〇〇先生)]
      F --> J[受付(〇〇先生)]
      G --> K[受付(〇〇先生)]
      H --> L[〇〇県 DPAT 調整本部(〇〇県庁) / 本部長:〇〇 / 連絡係:〇〇]
      I --> L
      J --> L
      K --> L
      L --> M[DPAT 活動拠点本部(〇〇県庁) / 本部長:〇〇 / 連絡係:〇〇]
      L --> N[DPAT 活動拠点本部(精神保健福祉センター) / 本部長:〇〇 / 連絡係:〇〇]
      M --> O[県立〇〇病院]
      N --> O
      O --> P[〇〇PAT]
  
```

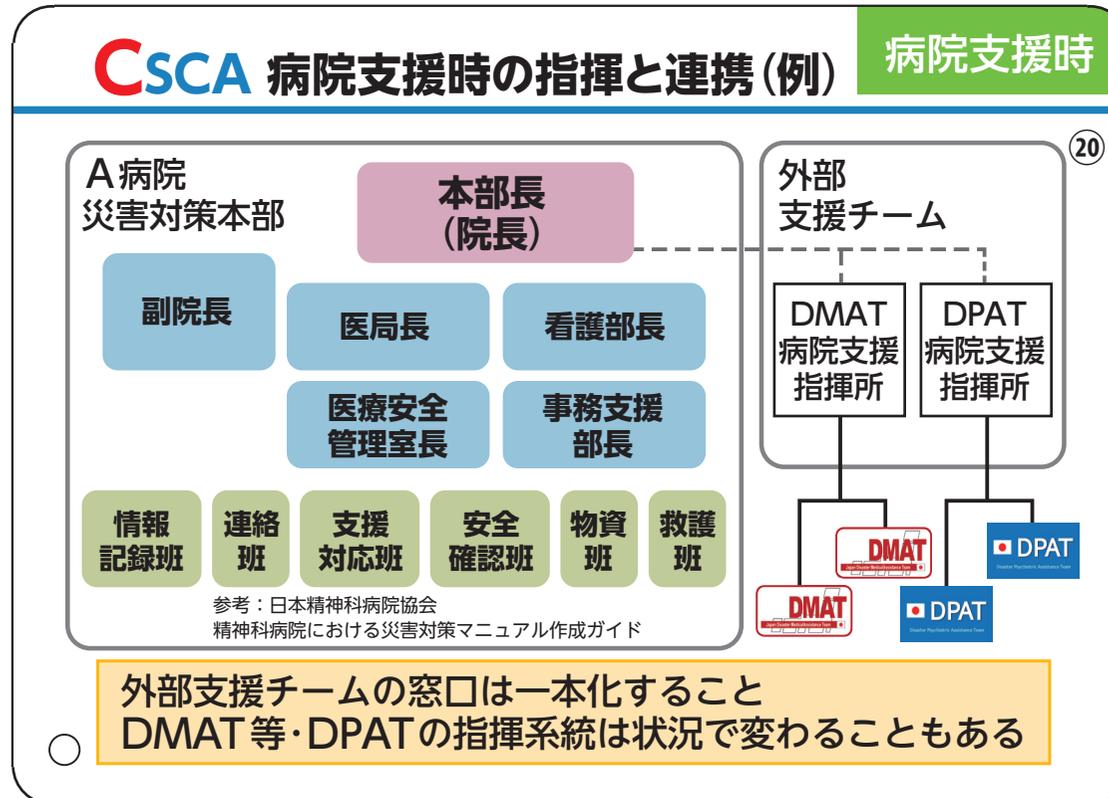
(組織図)

(コンタクトリスト)

- DPAT 活動拠点本部 (精神保健福祉センター内) 000-00-0000
- DPAT 事務局 000-00-0000

活動方針
未解決リスト

コンタクトリスト



○ 被災病院における多数患者の搬送プロセス(例) 病院支援時

現場到着～搬送先へ 被災病院スタッフと協働して行う ⑳

① 院内災害対策本部への挨拶

② 病院の方針を確認し、DPATの役割を共有

病院の被害状況・ライフライン・物資の供給状況・患者やスタッフの状況 等

③ 搬送する患者の概数を把握する

精神科病院入院患者搬送用紙(集計表)を作成し、**搬送の概数を捉える**

④ 上位本部との調整

精神科病院入院患者搬送用紙(集計表)に基づき車両の確保、搬送準備を行う

⑤ 精神科病院入院患者搬送用紙(一覧表)の作成

患者の**個人の情報を集約**し、搬送手段・経路・優先順位を検討する
(一覧表を作成すること自体が目的ではない)

⑥ 患者搬送

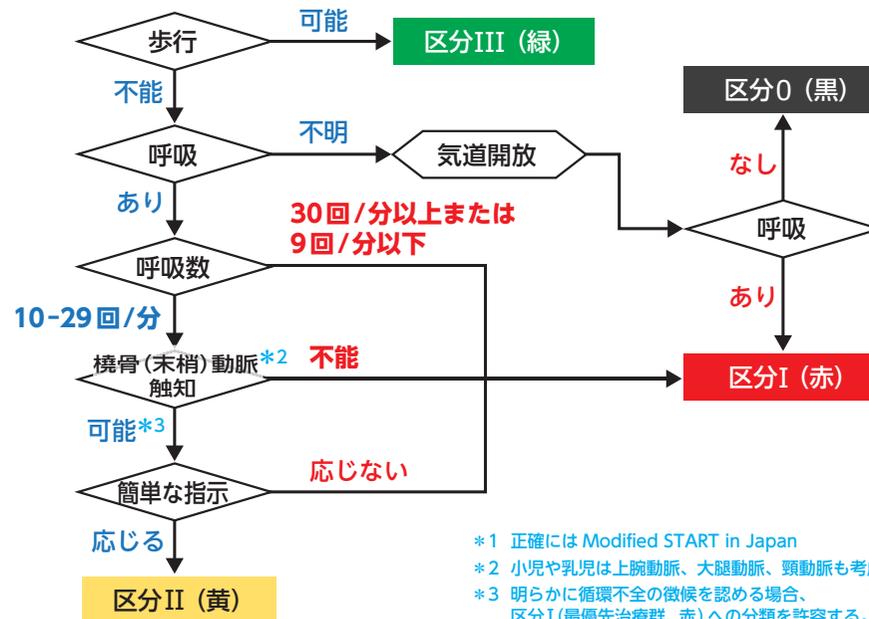
⑦ 搬送先へ患者を引継ぐ・申し送り

⑧ 報告

トリアージ ; START *1

病院・地域支援時

22



- *1 正確には Modified START in Japan
- *2 小児や乳児は上腕動脈、大腿動脈、頸動脈も考慮
- *3 明らかに循環不全の徴候を認める場合、区分I (最優先治療群、赤) への分類を許容する。

○ 救護区分の評価と搬送車両

病院支援時

②③

救護区分	評価の注意点	搬送に適した車両	人員配置(案)
独歩	・指示に従い、独歩	バス、ワゴン車 福祉タクシー パトカー DPAT車両等	10:1程度
護送	・指示に従い、 座位保持可能		
	・精神科的配慮が必要	職種は問わず 1名以上	
担送	・継続した医療処置が必要	DMAT、救急車・ 民間救急車	1-2名の 医療者
	・座位保持が困難	福祉タクシー DMAT車両等	
	・精神科的配慮が必要	福祉タクシー DMAT車両等	職種は問わず 2名以上

地域支援（避難所）における対応

地域支援時

②4

- ・ 平時の延長であることを意識
- ・ おしつけがましくない、無理強いしない支援
- ・ カウンターパートを意識した活動

- ・ 共感、繰り返し
- ・ 相づち、うなずき
- ・ ニーズを明確にする
- ・ まとめる

つなげる

はじめの
コンタクト

- ・ あいさつ
- ・ 自分の名前、
役割を伝える

傾聴

落ち着か
せる

- ・ 穏やかな声・
態度で接する
- ・ 静かな場所、
安全な場所に
導く 等

○

○ 支援者支援

支援者支援時

- ・ 被災地域のニーズに応じて、支援活動や支援体制作りに関する相談・助言等を行い、必要に応じて地域の社会的資源につなぐ。^{②⑤}
 - ・ 支援者自身への対応については、相談・助言等を行った上で、支援者の所属する組織の労務管理・産業メンタルヘルス体制へつなぐ。
- ※ 助言にあたっては、被災地域の支援者の活動を肯定的に評価し、助言による負担をかけないように十分に考慮する。ストレスチェック等の評価を行う場合には、その後の支援体制を明確化、あるいは体制を構築した上で実施する。

※ 詳細は、DPAT 事務局 HP 掲載の「災害時の支援者支援マニュアル」参照

< 出典 >

- ・ DMAT 事務局作成資料
- ・ DPAT 活動要領
- ・ DPAT 活動マニュアル
- ・ DPAT 事務局作成資料

本ポケットガイドに、各機関で必要な資料を追加し、ご活用ください

作成：令和 4 年 3 月

